

- ◆単元名 「〇〇読み」で音読名人になろう
- ◆教材名 『おおきなあれ』 阪田寛夫作 (光村図書2年)
- ◆授業課題 (研究内容との関連、明らかにすること)

- ・電子黒板で、詩や写真の提示の仕方を工夫したり、さまざまな読み方で音読させたりすることで、児童は、自分なりのイメージをふくらませ、表現することができたか。
- ・自分の考えや自分なりの音読の仕方を友達と対話させることで、児童は、さらに読みを広げることができたか。

1 単元について

(1) 児童観 (これまでの指導経過と課題)

本学級の児童は、1年生のころから音読集を使って詩の音読を楽しんでいる。また、毎日音読の宿題に取り組み、詩や物語などを声に出して読むことに慣れ親しんでおり、「姿勢」「声の大きさ」「口の開け方」「読む速さ」に気をつけて読むことができるようになってきている。特に会話文については、ささやくように読んだり、呼びかけるように読んだりして、物語のイメージを表現することができる子が多い。多くの児童は、元気よく音読することができるが、一人での音読になると声小さくなってしまったり、早口になってしまい、気持ちを込めて音読することが難しい子もいる。

4月単元の物語「ふきのとう」では、場面の様子を想像しながら声に出して音読する学習を行った。また、6月単元の物語「スイミー」では、おもしろかったところや心に残っているところを、「楽しい読み」「悲しい読み」「ゆっくり読み」など、読みたい感じを「〇〇読み」と表現させて、1～3文を音読する学習を行った。児童は、叙述や挿絵を基に想像したり、自分が考えた「〇〇読み」を意識したりしながら音読することができるようになってきている。詩の音読については、宿題で「読み方のヒント」が書いてある詩の練習を継続して行わせることで、少しずつ上達してきており、暗唱にも意欲的である。

対話活動では、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えに対して、似ているところや違うところ、よいところなどを伝えたりすることを経験してきている。対話することを通して、色々な考え方があることや、自分の考えを深めることができることに気づかせていきたい。

(2) 教材観 (教材の活用の仕方と指導事項)

本単元は、詩の持つ独特の表現方法や言葉の持つイメージを楽しみながら、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することを通して、読む力を育てることをねらって構成する。

「おおきなあれ」は、擬態語「ぶるん ぶるん ちゅるん」や、「ブドウ」と「リンゴ」の対比、「おもくなれ あまくなれ」「おもくなれ あかくなれ」の対比と繰り返しなど、言葉のもつおもしろさを十分に味わうことができる詩である。この詩の特徴である擬態語の表現や命令口調の繰り返しなどにより、声に出す楽しさを感じることができるであろう。音読を楽しみながら、リズムや擬態語のよさに気づき、果物が雨によって豊かに育つ様子を感じることができる教材である。また、短い言葉一つ一つに込められた思いを大切に音読させることで、詩のおもしろさに気づき、も

っと読んでみたいという意欲につなげることができる。それぞれの児童が、好きなところをどのように読みたいか考えさせ、「わたしはこう読みたい」という思いをもたせることで、想像豊かに音読させるのに適した教材である。

本単元の学習で身に付けた力は、二年下「だれかしら」の詩の学習につながっていく。また、様子を詳しく伝える表現方法について学んだり、様子を表す言葉を使って詩を創作したりする活動につながり、学習内容を繰り返しながら活用・展開することで、着実に力を身につけていけると考える。

(3) 指導観

本単元では、単元を通して、『〇〇読み』で音読名人になろう」という言語活動を設定することで、音読をする時には、自分なりの表現をしようとする意識を持たせ、「音読名人になろう」という意欲を高めていきたい。また、どのように読みたいかを考え、詩のもつイメージに合った表現で音読しようとするを通して、読む力を育てていきたい。

指導に際しては、まず、さまざまな読み方で何度も音読させることで、詩がもつリズムや対比、繰り返しや、擬態語など、詩のおもしろさを味わわせる。その際、電子黒板を使い、詩を隠して提示したり、少しずつ提示したりすることで、詩の構成に気づき、興味を持って音読したり暗唱したりする意欲につなげたい。また、ブドウ園やリンゴ園の写真を提示し、イメージを具現化する助けとし、自分が育てた野菜についても想起させ、思いのこもった音読となるようにする。

対話活動では、1時間の授業の中で全員が、自分の考えや自分なりの音読の仕方を友達に伝えることができるようにすることを大きなねらいとしてペア対話を取り入れる。また、全員の前で発表することへの自信や、自分の音読の仕方と比べたり、気づいていなかったことを新たに知ったりすることにもつなげたい。さらに、友達から学ぶという気持ちを育てるとともに、言葉の力、音読の力を育てていきたいと考える。

音読発表会では、お互いに音読し合い、聞き手としての印象を交流することで、自分の音読を振り返るきっかけにしたい。また、擬態語や擬音語を使った詩を紹介し、それらを使うことによる効果に気づかせたい。その際、電子黒板を活用し、擬態語や擬音語を見つけて丸で囲む活動を行うことで、言葉に着目させ、二年下「ようすをあらわすことば」の学習につなげていけるようにする。

2 単元の目標

- ・声に出して、楽しく音読することができる。【関心・意欲・態度】
- ・自分なりの表現で、工夫して音読することができる。【読むこと（ア）】
- ・擬態語や擬音語があることに気づくことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ウ）】

3 単元の評価規準

- ・詩の音読を通して、音読することの楽しさに気づき、楽しんで音読しようとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、工夫して音読している。【読むこと（ア）】
- ・擬態語や擬音語など、様子を表す言葉には様々なものがあることに気づいている。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ウ）】

4 指導計画（全2時間） 本時 1 / 2

次	時	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	1 (本時)	○「おおきなあれ」を色々な方法で音読する。 ○好きなところの音読の工夫を工夫する。	・繰り返し音読し、詩のおもしろさを味わわせる。 ・好きなところを選ばせ、「私はこう読みたい」という「〇〇読み」とその理由を考えさせる。
	2	○好きなところのよさが伝わるように「おおきなあれ」の音読発表会をする。 ○色々な詩の中から、擬態語や擬音語を見つけ、読み方の工夫を考える。	・どのように読みたいかを説明させてから、音読をさせる。 ・色々な詩を紹介し、その中から擬態語や擬音語を見つけさせる。 ・好きな詩を選ばせ、工夫して音読させる。

5 本時の指導（1 / 2）

(1) 目標

「おおきなあれ」の中から好きなところを選び、「〇〇読み」で音読しようとしている。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 「おおきなあれ」の1連を音読する。	・電子黒板に、1連だけを提示し、音読させる。
	2 繰り返しや対比など、詩の構成に気づく。	・電子黒板で、2連を1行ずつ出していき、1連との違いや、繰り返しや対比に気づかせる。
	3 本時のめあてを確認する。	
	「おおきなあれ」を「〇〇読み」で音読しよう。	
調べる	4 「おおきなあれ」を色々な方法で音読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に読む…語のまとめりや言葉の響きを全員で確認する。 ・号車ごとに読む（2行ずつ）…2行ずつのまとめりやリズムを意識させる。 ・交互に読む…隣の席の子と交互に読み、自分の音読と相手の音読を確認する。 ・1人ずつ読む…慣れてきたところで1人1行ずつ読み、自信をつける。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に読む、号車ごとに読む、順番に1行ずつ読むなど、さまざまな読み方を通して、詩のおもしろさを味わわせる。 ・2行ずつを意識させ、最初の2行は雨粒に命令（お願い）している、次の2行は様子（音）を表す言葉（擬態語）、次の2行は果物への命令（お願い）という詩の構成と、それを繰り返した形で2連があることに気づかせる。 ・ブドウ畑やリンゴ畑などの画像を提示し、それを見ながら音読させることで、イメージをふくらませる。

深める	<p>5 好きなところを選び、どんな読み方をしたいか、「〇〇読み」とそのように読みたい理由を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>詩のイメージから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気読み ・お願い読み ・うれしい読み ・ふるんふるん読み <p>詩の読み方から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり読み ・ゆっくり速く読み ・大きく強く読み </div> <p>6 ペア対話で、紹介し合う。</p> <p>7 数名が全体場で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を2行ずつに区切り（ア～カ）、その中から好きなところを選ばせる。 ・選んだところをどのように読みたいか、「〇〇読み」という表現の仕方で書かせる。 ・なぜそのように読みたいのか、理由も書かせる。 ・書けた子から、「〇〇読み」とカードに書いて、選んだ部分（ア～カ）の下（黒板）に貼らせ、練習をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準</p> <p>◆：自分が考えた「〇〇読み」に合った表現で音読しようとしている。</p> <p>A：「〇〇読み」をする理由を、詩のイメージをもとに考え、自分が考えた「〇〇読み」に合った表現で音読しようとしている。</p> <p>自分なりの表現で音読している。</p> <p>→「〇〇読み」を、例の中から選ばせ、理由を考える手がかりを与える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだところ（ア～カ）と、「〇〇読み」、理由を言ってから音読させる。 ・聞いていた子には、感想を言わせる。 ・ペアの友達の「〇〇読み」を一緒に音読させる。 ・黒板に貼ってある「〇〇読み」を見て、聞いてみたい「読み」を選ばせたり、工夫して音読している子を指名したりして、数名の子に発表させる。 ・よかったところや、自分の音読と似ているところ、違っているところなどを発表させる。
まとめる	<p>8 本時の学習をふりかえり、次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた「〇〇読み」を大切にし、友達が考えた「〇〇読み」も取り入れながら、「おおきなあれ」を音読する。 ・工夫して音読できたことを称賛し、次時は、「おおきなあれ」の音読発表会をすることを伝える。

